

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970800221
法人名	社会福祉法人 清長会
事業所名	指定認知症高齢者グループホーム敷島荘
所在地	甲斐市大久保1351
自己評価作成日	令和 4年 10月 18日
評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 4年 11月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設(特養、デイ、居宅介護支援事業所等)が併設されている為、情報共有や情報交換ができ、利用者様をトータル的に支援していくことができる。また緊急時の対応に関しても、併設施設との協力体制が整っている。食事は手作りにこだわり、利用者様の嗜好に合った物や季節の食材を取り入れ、笑顔、笑いの絶えない環境作りを心掛けている。また個々の能力に合わせ、“もうひとつの家族”になれるよう日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム敷島は高齢者複合施設の一つとして平成13年に開所し20年余りになります。9名1ユニットのこじんまりした施設で、災害の少ない高台に位置しています。20年という長い実績により、地域の方々との交流も密にあり、地域に根ざした施設です。また、利用者の楽しみである食事にも力を入れ、利用者、地域の方々、職員が笑顔で会話する姿を常に追い求め「もう一つの我が家」になることを目指し支援しています。複合施設の一つとのことで状態が変わった時などの支援体制もあり、家族の安心になっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている(参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49) (※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)		

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

指定認知症高齢者グループホーム敷島荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や休憩室など目につく場所に理念をかがけ、職員一人ひとりが理念に沿ったケア、取り組みが行えるよう心掛けています。	理念「高齢者の幸福のためのサービス提供と、地域社会への貢献」を玄関等に掲げ、仕事に入る前に職員一人一人が確認し、ケアの実践に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナの影響で施設や地域の行事が中止になり、関わる機会は減少しているが、運営推進会議の委員の方々には、定期的に利用者の様子や状況を報告し、情報発信を行っている。またブログの活用によって、日々の生活の様子も多くの方に発信している。隣近所との交流はあり、関係性も良好。	コロナ禍ではあるが、近所の方から旬の野菜や果物、珍しいアケビやイチジクなどおすそ分けがあったり、地元の方から花が届くなど地域の方との関係も密にもたれています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	基本理念にある“高齢者の幸福のためのサービス提供と地域社会への貢献”を常に念頭に置き、日々取り組み、委員会活動を通じ、自治会との連携を図っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響で今年度は会議を開催していないが、2か月に1回日々の利用者の様子や利用状況などを委員の方々に報告することで、グループホームでの生活の様子を理解して頂いている。またグループホームのサービスや運営の向上につながるよう、ご意見を頂いている。	運営推進会議のメンバーが集まった会議はもたれていないが、施設の様子や利用者の状況等については、二か月に一度書面やグループホーム便りを送っています。また直接伺って対面で会話をし、その中で貴重なご意見をいただくこともあるとの話が聞けました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所は市の各種委員会の委員活動や会議へ参加し、情報発信・情報交換を行っている。また運営推進会議の際には、市職員の参加をして頂くことで連携を図っている。	市の長寿推進課に出向いて直接情報提供したり、法的なことなど不明な点を確認するなど密に連携が取れています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当事業所では“脱身体拘束宣言”を掲げており、身体拘束ゼロに取り組んでいる。また委員会や研修で身体拘束について検討し、理解を深めている。現在スピーチロックについて強化し、取り組んでいる。	現在は身体的な拘束は行っていないがスピーチロックの研修を行い、現場でのケアの中で常に意識できるよう、管理者が中心となり職員全員で取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を中心に研修にて虐待について検討し、理解を深めている。また職員会議等で情報共有し、利用者の状態観察を確認し合い、虐待の早期発見に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見人制度を利用している方もいる為、職員は権利擁護に関する制度を学び、理解を深めている。また施設全体として委員会も設置していることにより、全職員が学ぶ機会を持ち、支援に活用している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には利用者や家族と十分な話し合いを行い、疑問点や不安なことについてはその場で対処、対応を行ない、ご理解頂けるよう努めている。特に重要なことについては繰り返し説明し、状況に応じては定期的に報告を行ないながら家族の理解を頂いている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

指定認知症高齢者グループホーム敷島荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談申し出窓口の案内を掲示し、周知している。また苦情箱も設置し、いつでも意見や要望を受けられるよう環境を整備している。オンブズマン制度や介護相談員を活用させて頂いたり、利用者の家族による家族会への協力も頂く中で、定期的に会合を開催し、意見交換ができる場を設けている。	玄関に意見箱を設置したり、コロナ禍で電話連絡が増え、その際家族からの意見を丁寧に聞いています。オンブズマン制度や介護相談員の利用も定期的に行われ、利用者・家族の意見要望を伝える機会が整っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員会議を行い、その中で意見や提案を出しやすい環境作りに努め、職員の意見を反映している。また年2回人事考課を行い、施設長等に直接意見の言える場を設けている。	年2回施設長との面談が設定されており、運営に関することを話すことができます。管理者とは、日々の業務中に利用者の対応等、細かいところまで相談することができ、短時間に意見が反映されてケアに活かされています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、個々の努力や実績を評価している。また各職員の意見や考えを取りまとめ、管理者より週1回の運営会議にて意見、要望を伝え、働きやすい職場作りに努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年新任研修を開催し、職員の質の向上に努めている。コロナにより外部研修への参加が減少しているが、施設内で創意工夫しより良いケアにつながるよう努力している。また資格取得についても進んで取得できるよう情報発信を行なっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や交流会などに参加し、意見、情報交換を行っている。また山梨県グループホーム協会への入会、役員を積極的に引き受け、ネットワークを広げていく中で、サービスの質の向上に努めている。また同法人内にもグループホームがある為、情報交換を行い、お互いに切磋琢磨できるよう努めている。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時に本人の意見の言いやすい環境づくりを心掛け、できるだけ多くの情報を収集する努力をしている。またちょっとした仕草や表情にも注意を払い、その中からも情報を得られるよう努力している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時にできるだけ細かなところまで情報収集し、良いケアにつながるよう努めている。また信頼関係が早く築けるよう積極的に関わる努力をし、家族にも言いやすい環境を提供している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、関係者にてく話し合いを行い、本人に一番適している支援が提供できるよう見極めている。また併設施設も備えている特性を生かし、総合的な支援も含め最後まで対応できるよう心掛けている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場になって考え、それぞれのベースに合わせた支援を行うよう心掛けている。またできるだけ多く触れ合う時間を設け、信頼関係を築けるよう努力し、共に暮らす家族を意識し、日々生活支援に努めている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

指定認知症高齢者グループホーム敷島荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で面会等を控えているが、可能な限り情報交換を行い、信頼関係を築いていくよう努めている。また信頼関係を築いていく中で意見、要望をくみ取り、ケアに反映していけるよう努力している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で思うように活動できない為、家族との電話の際に本人と代わり話をして頂いている。また家族が来荘された際は、窓越しや距離を取っての面会で対応を行ない、定期的にお便りやブログなども活用し、家族に日頃の様子を伝えている。	コロナ禍ではあるが、近所の方から旬の野菜や果物、珍しいアケビやイチジクなどおすそ分けがあったり、地元の方から花が届くなど地域の方との関係も密にもたれています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場となる為、利用者同士の関係を把握し、時には職員が間に入り、皆が穏やかに過ごせる環境作りに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設施設に移られるケースも多い為、継続的に利用者や家族とも顔を合わす機会がある。退所する際は、その後の支援についてもご理解頂けるよう話し合いを行い、最後までフォローするよう努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	可能な限りコミュニケーション、スキンシップを図り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握する努力をしている。またその希望や意向に沿ったケアプランを作成し、本人の思いに寄り添えるよう努めている。	コミュニケーションをとりながら、できなくともやりたいという気持ちを大切に、意向を汲み取っています。把握が難しい利用者には、表情や仕草から汲み取ったり、家族や入所前にかかわった方々から情報を集め、それをもとにアプローチして意向を探っていく支援をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、関係者よりできる限りの情報収集を行い、生活歴や趣味などの把握に努めている。また日々の会話の中からも情報を仕入れ、日々の生活の中で活かせるよう心掛けている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中より個々の有する力を把握し、一人ひとりに合った支援を行っている。また個々の生活ベースを大切にしながらも共同生活が行えるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を踏まえケアプランに盛り込んでいる。また関係職員からの情報なども常に収集し、ケアプランに反映できるよう努め、3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、本人の変化に気付けるよう現状把握に努めている。	計画担当者が中心になって職員から情報を集め、アセスメントやモニタリングを行い、三カ月に一度プランを見直し、利用者の状態に合わせた計画を立てています。	現在利用者の状態把握は出来ているが、今後効率的かつ多角的に情報が集められるシステムを構築し、プランに反映で来ることを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子や状態変化については毎日個人ケースに記入し、職員間の情報共有に努めている。検討が必要な場合には随時または職員会議の中で検討し、統一したケアが行えるよう努めている。介護日誌の備考欄を活用し、職員間の情報共有、周知を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空床利用型ショートステイ(定員1名)を利用できる体制を整えていることにより、在宅の認知症の方や家族の介護負担の軽減等を機能的に取り組んでいる。また併設施設や居宅介護支援事業所等とつながるため連携を図っている。			

(様式1)

自己評価および外部評価結果

事業所名:

指定認知症高齢者グループホーム敷島荘

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響でボランティアの受け入れを控えているが、地域の方々からの差し入れも多く、季節感を味わえる環境が整っている。引き続きご利用者に楽しんで頂けるよう、ボランティアの受け入れを検討していく。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で今までのかかりつけ医もしくは施設の嘱託医かを選択して頂いているが、いずれにしても情報共有がしっかりできるよう努めている。現在は今までのかかりつけ医が多数を占めており、様子や状況が伝わるよう努めている。また状態変化があった際は、職員が受診に同行し、直接状況を伝えるよう努めている。	入所時、本人や家族の希望により、かかりつけ医を選択しています。現在はほとんどが入所前のかかりつけ医を継続しています。受診時は家族対応で、細かい情報は書面で家族を通してかかりつけ医に情報提供しています。また状況によっては職員の付き添いも可能となっています。利用者の身体的変化により、途中から施設の嘱託医への変更も可能であることを伝え、家族の安心になっています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや利用者の変化に早期発見できるような状態観察を行っている。併設施設の看護師に協力を依頼し、判断や指示を頂いている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族や病院に定期的に連絡し、情報収集や情報交換を行い、状態確認を行なっている。また本人、家族の希望や要望も踏まえ、医療関係者との連携を図れるよう情報共有に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、早い段階から家族等との話し合いの場を設け、できる限り家族の負担が大きくなるよう法人全体で支援するよう努めている。また本人や家族の希望に添った対応ができるよう柔軟に対応している。	現在看取りは行っておらず、重度化し事業所での生活が難しくなった際には、本人・家族の意向を踏まえ、事業所で可能な支援を伝えつつ、併設の特別養護老人ホームへの移行もできることを伝えていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には併設施設の看護師に協力頂き、連携、対応している。また全職員が救命救急法の受講をしており、利用者の急変時の対応に備え、急変時の連携体制も確認ができています。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練をしており、災害時の対応に備えている。また地震、火災、夜間などを想定した訓練も行っており、地域住民が参加している会議等にて、随時地域の方々にも協力を呼びかけている。	年10回の防災訓練(地震・火災・夜間・消火訓練・連絡網確認・非常食の試食等)あらゆる内容で事業所独自で行っています。当施設は、ハザードマップによると水害や崖崩れ等の災害地区には入っていないため、火災・地震への対策を主にしています。地域の方の協力は依頼しているが、実際の訓練には参加していません。	実際の訓練の中で地域の方の参加を依頼したり、消防署の方の指導も受けられるような機会を持つことを期待します。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気の中で、人生の先輩として尊重し、言葉遣いや対応に注意し、プライバシーの保護に努めている。	排泄時、入浴時等プライバシー保護に努め、声掛けも堅苦しくならず、かといって砕けすぎず、尊敬の念をもって節度ある接し方をしています。		

自己評価および外部評価結果

事業所名: 指定認知症高齢者グループホーム敷島荘 [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者希望や思いを常に言える環境や雰囲気作りを心掛け、自己選択、自己決定ができるような声かけも心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活が送れるよう努め、受容、傾聴するように心掛けている。また利用者の中でもいくつかのグループに分かれ、その人らしさが引き出せるよう支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回施設にカットに来て頂き、週1回整容の日を設け、爪切りや髭剃り、耳かきなどを行い、身だしなみを整えている。入浴時には利用者とともに服を選びおしゃれを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年1回嗜好調査を行い、利用者の好みの物を取り入れるよう心掛け、日々の会話の中から情報収集するよう努めている。また食事の準備や片付けもできることは一緒に行うよう心掛け、時には併設のデイサービスのバイキングにも参加し、いつもと異なる場所、違った雰囲気の中で食事を楽しんで頂いている。旬の野菜などを頂くことも多い為、急遽メニューを変更して対応し、その季節の美味しい食材を提供している。	日々の会話の中から利用者の好みを聞き、メニューに取り入れています。利用者との会話から「粉ぼうとうが食べたい」との話があり、急遽メニューを変更したり、月2回赤飯、月3回同法人の手作りパン、併設のデイサービスの昼食バイキング(寿司・ラーメン・鍋料理・餃子等)への参加など、日々楽しみのお食事が提供されています。食事の準備(テーブル拭きやお盆拭き等)や食材の下ごしらえも状態に合わせて行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士の指導の下、職員が献立を作成し、手作りにこだわり、季節の食材を取り入れている。声かけを行いながら、1日トータルに必要な摂取量が確保できるよう支援している。また個々の状態を把握し、量や盛り付け、食事形態などを工夫して食べやすいよう努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前後のうがいを徹底し、毎食後義歯の洗浄、残菌がある方は歯磨きも声かけにて行い、できない部分は介助にて対応している。また必要に応じ歯科往診への協力依頼も実施。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄が自立している方は維持していけるよう心掛け、自尊心を傷つけないよう都度トイレ誘導を行っている。また定時のトイレ誘導を行っている方もいるが、利用者の行動や様子を観察し、排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄を可能な限り促している。	現在おむつ使用者はゼロで、一人ひとり排泄パターンの把握をし、定時でトイレ誘導しています。それにより以前より失禁の回数が減った利用者もいるとの話が聞けました。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂るよう声かけ、ヨーグルトやヤクルトなどの乳製品や食物繊維が多く含まれている食材を取り入れている。また適度な運動も行うことで便秘予防を促し、チェック表を活用して個々の排泄パターンの確認を行なっている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月～土が入浴日になっており、その日の状態や様子でも入浴できるように対応している。また安全には十分配慮し、無理強制することなく、個々のペースで入浴を楽しんで頂いている。	週2回入浴をし、利用者の状態に合わせて2名介助での入浴をする場合もあります。また季節を感じていただくため、ゆず湯など季節風呂の提供も行っています。入浴を嫌がる利用者には、時間・曜日・職員を変えることで気持ちよく入浴していただくことを心がけています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後に休憩をとって頂いたり、休憩をとらない方はホールで過ごしていただいたり、個々の生活習慣に合わせて快適に過ごして頂けるよう努めている。			

自己評価および外部評価結果

事業所名: **指定認知症高齢者グループホーム敷島荘** [セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名()	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋をファイルに綴り、いつでも職員が確認できるよう努めている。薬の変更があった際には随時介護日誌等を活用し、全職員に周知し、薬は命に直結することを認識し、安全に服用できるよう支援している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や家族、関係者などからの情報を参考に、できること、好きなことを行える環境を提供している。調理、清掃、洗濯たたみなど日々の生活の中の役割、習字、華道、工作など楽しみ事を行うことで充実した日々が送れるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、庭の散歩や時には外気浴を行い、庭でご飯やお茶を提供し、気分転換を図っている。また季節ごとのイベントを計画し、季節感を感じて頂けるよう努めている。	コロナ禍で外出は出来ないが、玄関先で桜や梅の満開の時期、紅葉の時期等に昼食会を開いたり、日常的に庭先のベンチで外気浴をしながらのお茶の時間を提供するなど工夫し、支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの影響で利用者からの依頼や必要なものを職員が購入してくることが中心になっているが、本人の希望を可能な限り傾聴し、能力、意欲低下予防に努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人との関りが途絶えないよう電話や手紙のやり取りの支援を行い、本人が対応できない所を職員が協力し、支援に努めている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、日当たりのよいホールは、利用者の憩いの場となっている。テレビを見たり、会話を楽しんだり、レクリエーションを行ったりなど、それぞれ心地よく過ごせる環境を整えている。またテーブル、ソファと自由に活用し、ホールの見えるところには利用者の作品を飾り、さらなる意欲につながるよう努めている。	全体を見渡せる家庭的なリビングは、窓も広く明るくゆったりとしています。食事を作る音や匂いもすぐそばで感じられ、壁には利用者の作った干支の貼り絵や季節の作品が飾られていました。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に使えるテーブル、ソファがある為、それぞれが思い思いに活用し、過ごされている。時には利用者の居室に入り、会話を楽しんでいる姿も見受けられる。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで自宅で愛用していた愛着のあるものなどを入所時や状況に応じ持ち込んで頂き、できるだけ以前と変わらない環境の下で、居心地良く過ごして頂けるよう心掛けている。	収納が広くとられており、居室内はすっきり整理されていました。壁には利用者の作品が飾られ、TVや仏壇を持参している利用者もいます。また広い窓から見慣れた景色が広がっており、利用者の安心にも繋がっています。家族からの温かいコメントも枕元におかれていました。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ヒヤリハットや事故報告書を活用し、利用者一人ひとりが安心、安全に生活が送れるような環境に努めている。また居室、トイレ、浴室などのハード面に関しては、分かりやすい配置となっている為、少しでも自立支援が送れるよう状況に応じ声掛けや促しにて創意工夫を行なっている。			